

職員への働きかけ（心も健康）や業務内容の見直しに取り組んだ実践

関市立桜ヶ丘中学校

1. 目標

- ・心も健康に、風通しのよい職場づくり
- ・業務内容を見直し、時間外勤務時間の昨年度同月比10%減と80時間越え職員の削減

2. 実践の内容

(1) 教職員への働きかけ

①ノー残業デーの啓発

ノー残業デー（毎週水曜日、8、18、28日）を推奨したポスター（「すいすい帰ろう水曜日」「早く帰ろう8のつく日」）を職員室の予定黒板に掲示し、目に見える形で啓発をした。

②勤務時間の正確な打刻の依頼と管理

正確な勤務時間の打刻の依頼をすることで、実態を把握し、個別に対応した。

③職員スローガンの掲示

職員スローガン（「Teamwork」「Heartwork」「Headwork」「Network」「Footwork」という5つのWORK）を職員室に掲示し、本校（チームさくら）の方向性を示した。

④年休の推奨

「学期に一回は自分のために」と、年休（ご褒美年休）の取得を推奨した。

(2) 業務内容の不断の見直し

①日課の工夫

部活動や会議のある日は、5時間授業、朝活動や掃除を無くすなど日課を工夫し、放課後の時間を確保した。

②職員会議、打合せの見直し

法律、会議や委員会の参加者などの根拠をもとに、職員会議の見直しを行った。職員会は、全体にかかわる内容とし、校長、教頭、教務、生徒指導主事、事務の話で30分とした。指導部からの具体的な提案は、学年会で周知した。また、ICTを活用し、職員会議や打合せの資料は、ペーパーレス化を進めた。

③部活動指導に係る負担軽減

市の部活動地域移行を見据えて、「部活動指導員9人確保」「部活動のない日」「休日の指導は土日どちらか」「平日1時間、休日3時間」など、今後の地域移行に向けて進めた。

3. 評価結果

※データは4月～11月

評価	令和5年度	令和4年度	昨年度比
月当たりの平均時間外勤務時間	42時間19分	46時間50分	9.6%減
時間外勤務80時間越え（延べ人数）	8人 （含100時間～0人）	16人 （含100時間～3人）	8人減

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・「まずは管理職」からの積極的な啓発により、教務主任、生徒指導主事、学年主任、事務主任からも帰宅を促す声が増えた結果、結果時間外勤務削減につながった。全職員の意識改善につながった。
- ・日課の工夫や会議のあり方が、放課後の活動、職員の事務作業の時間の確保につながった。

(2) 課題

- ・決まった教職員の退校時間が遅いため、正確な打刻とその要因から、さらに勤務時間の学校課題を探り、個別に対応をしていく。